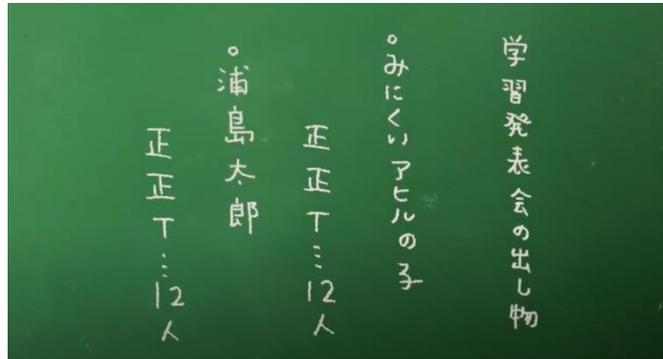


Happy になる 5 つの方法

ここはある学校。ホームルームで学生たちが、学習発表会の出し物について話合っています。しかし困ったことに、24人のクラスで「みにくいアヒルの子」を選んだ学生が12人

「浦島太郎」を選んだ学生が12人。意見が真っ二つに分かれてしまいました。



「みにくいアヒルの子」を選んだ子は言います。

「仲間はずれの問題はとても大切だから、みにくいアヒルの子の方がいいと思います」

一方で浦島太郎を選んだ子は「みんなのヒーローだから」と理由を述べます。

みんな違う意見を持っていて、理由も多様で。話は平行線をたどります。

ある学生が言います「もういっそ、劇をするのをやめにしませんか。どっちを選んだって、自分の希望が叶わなかった人にとっては面白くないわけでしょう」

それはそうだけど、そんなぁ…とみんなため息。一体どうすれば良いのでしょうか。

そんな時、ある学生が言いました。

「あのお。みんなのやりたいことに関するアイデアを出したって、

そこから新しい劇を作るってどうですか。」

しばらくの沈黙の後、おおーっと、感嘆の声が響きます。

そうして今まで膠着していた議論が再び動き出し、

また新しい視点からの話し合いがはじまりました。



解説



平和学の父ヨハン・ガルトゥングをご存知でしょうか。ガルトゥングは1941年から三度の戦争を引き起こしたペルー・エクアドルの国境紛争に際して、エクアドルの大統領に「自然公園のある2国家ゾーン（両国共通のスペースをつくること）」を提案し、その後両国は一部これを採り入れる形で平和条約を締結、定例合同内閣会議を開くほどに関係を改善させたことなどで知られる**紛争解決のプロ**と言える人物です。ガルトゥングによって提唱された理論の一つに**トランセンド（超越）法**と呼ばれるものがあります。これは、例えば1つのリンゴを巡って争う二人を例に説明することができます。

1つのリンゴを巡って、二人の兄弟が争っている場合、Bが勝てば、Bがリンゴ1つを一人占めることとなります。Aが勝っても同じこと。どちらかしか勝てず、どちらかは必ず負けることとなります。

こうならないとしたら、どのような結果があり得るでしょうか。

対立することを二人とも避けて、「面倒だから要らない」と言い出すことも考えられます。

これは**撤退**と呼ばれ、2人とも諦めることを指します。このような結果は、二人の関係性にヒビが入らないという意味では良いかもしれませんが、せっかくのリンゴが勿体無いですよ。

半分ずつ食べるというでもあります。これは本当はもっと食べたいのに、と両者が思うとしたら、これはいわゆる**妥協**になります。

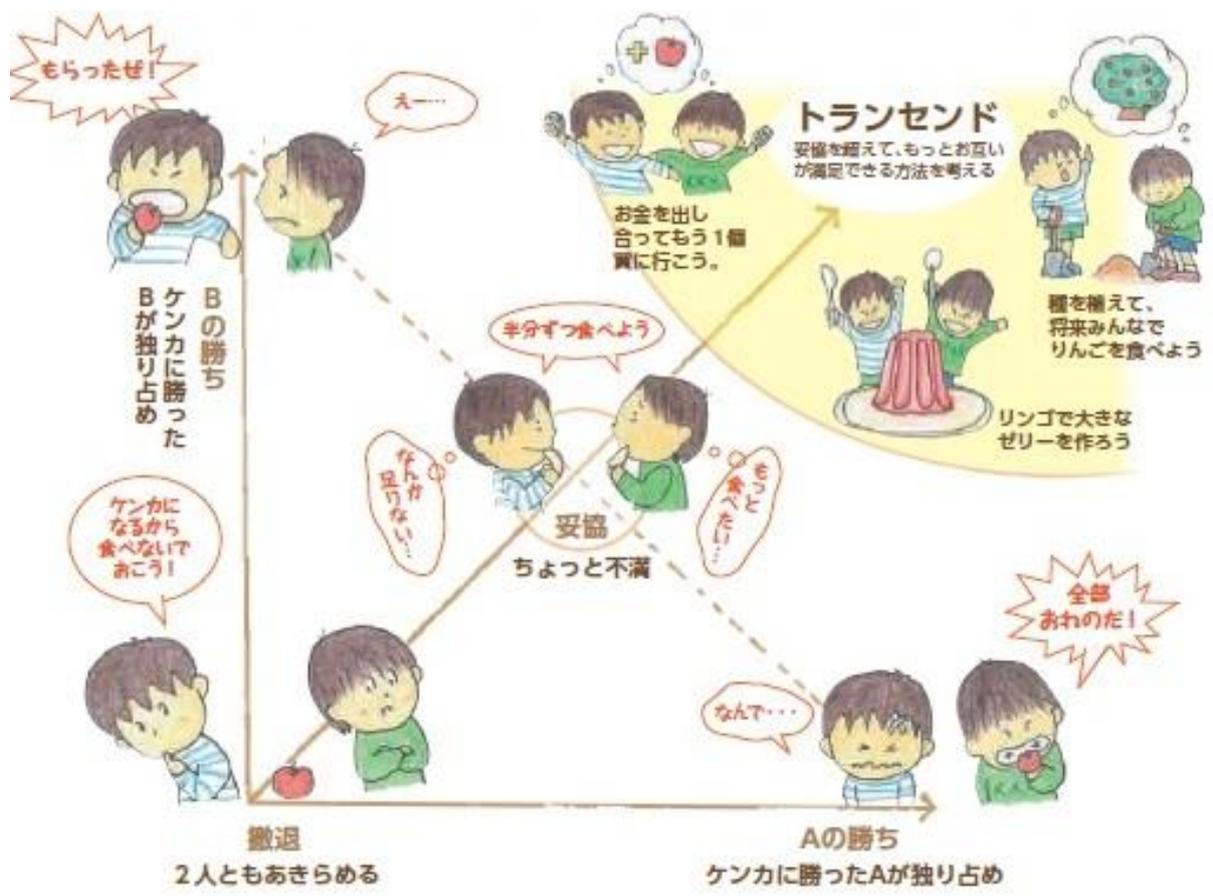
これのどれにも当てはまらない方法に、トランセンド（超越）法があります。

これは、妥協をも超えて、もっとお互いが満足できる方法を考えるもの。**なぜリンゴが欲しいのか、必要なのかを吐露しあうことで、**

- ・二人で協力しあって、もう一つのリンゴを買いに行く
- ・実は二人ともゼリーを作るつもりだった。二人で大きなゼリーを作る（規模の経済が働いて単価は安くなる）

・二人で種を植えて、将来みんなでリンゴを食べようという構想を一緒に練る など

ただ1つのリンゴを奪いあうのではない、他の新しい方法を模索することができるのです。



撤退
2人ともあきらめる

Aの勝ち
ケンカに勝ったAが独り占め